

プログラムの概要

食料生産の基盤である生産技術とそれを構成する機能と生産環境を理解し、それらの開発・改良を通じて次世代の農業を担いつつ地球生物圏の健全な持続のために地域のみならず国際的に活躍できる高度専門職業人を養成するカリキュラムを編成しています。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

次の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与します。修了の認定は、所定の単位修得に加え、研究科の目的に応じた学位論文についての研究成果の審査（最終試験）で行います。

- (A) 植物の遺伝的能力の開発や低投入・環境保全型の生産技術の構築、および生産環境に関する高度な知識や研究能力を有する。
- (B) それらの高度な知識と研究能力を備え、国際的視野を加味して次世代の農業の現場に生かすことのできる能力を有する。
- (C) 専門知識、プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力が所定のレベルに達し、修士修了後の社会人生活における様々な場面で活躍できる能力を有する。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

- (1) 農業やバイオサイエンスに関する高度な知識や技術を修得して、地域社会や国際社会に貢献しようとする夢と情熱を持つ人
- (2) 地球・生命環境の仕組みを本質的に理解した上で、生物資源を最大限に保全・活用して、農業生産物を安定に供給するための課題を解決する使命感を持つ人
- (3) 主体性があり、常に問題意識を持ち、解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を備えている人
- (4) 本専攻で学んでいくための基礎となる学力を有する人

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 専攻を希望する教育研究分野の専門科目について、基本的な学力と熱意を備えているかどうかを重視します。
- (2) 外国語および志望する専門教育分野以外の専門科目について、基本的な学力を備えているかどうかを評価の対象とします。
- (3) 面接試験では、主体的な姿勢、思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

学修・教育目標を達成するために、カリキュラムは大きく次の3つに分けられます。

1. 講義科目：高度な知識を修得することができるように16科目と特別講義2単位から構成されています。原則として、この中から8科目（16単位）以上選択する必要があります。ただし、指導教員と相談の上、他専攻の科目や学部の科目の受講を希望する場合は、最大4科目（8単位）まで認められます。
2. 植物生産特別ゼミ：異なる専門分野の大学院生が集まり、英文・和文の学術論文の内容をパワーポイントによって説明し、参加者とともその論文内容について質疑を通じて専門知識、プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を磨き、国際的な視野を養うための科目です。
3. 生物生産科学専攻特別実験・特別研究：指導教員による指導の下で実験や研究を実施し、高度な実験技術やデータ処理法を修得し、科学的根拠に基づいて論文を作成するための能力を育成するための科目です。

生物生産科学専攻 植物生産学講座 カリキュラムツリー

		1年次		2年次		学修・教育目標
		前期	後期	前期	後期	
植物生産学に関する高度な研究能力に加えてブレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける	生物生産科学特別研究Ⅰ	生物生産科学特別研究Ⅰ	生物生産科学特別研究Ⅰ	生物生産科学特別研究Ⅱ	生物生産科学特別研究Ⅱ	植物生産学領域における高度専門職業人として、高度な知識や研究能力およびブレゼンテーション・コミュニケーション能力を身につける
	生物生産科学特別実験Ⅰ	生物生産科学特別実験Ⅰ	生物生産科学特別実験Ⅰ	生物生産科学特別実験Ⅱ	生物生産科学特別実験Ⅱ	
植物生産学に関する高度な専門知識を身につける	植物学特論	植物学特論	栽培学特論	園芸生産技術学特論	生物生産科学特別講義Ⅱ	植物の遺伝的能力の開発や低投入・環境保全型の生産技術の構築、および生産環境に関する高度な知識を身につける 得られた知識に国際的視野を加味して、次世代の農業の現場に生かすことのできる能力を身につける
	花卉学特論	花卉学特論	蔬菜学特論	作物生産技術学特論	植物栄養学特論Ⅱ	
	植物・土壌微生物学特論	植物・土壌微生物学特論	比較農学特論	植生マネジメント特論	地質学特論	
	植物栄養学特論Ⅰ	植物栄養学特論Ⅰ	土壌学特論	農業気象学特論	野の植物の化学特論	
					果樹学特論	